

深志卓球部だより

2008, 11, 9

新人戦県大会を終えて

学校対抗 ベスト4 (20年ぶりの県大会団体入賞)

男子シングルス 松島祥晃 (ベスト16) 北信越選抜大会出場

学校対抗1回戦 (対上田)		
深 志	3-0	上 田
白 鳥	14-12	内 藤
	11-6	
	13-11	
松 島	7-11	松 屋
	11-9	
	11-6	
白 鳥 竹 内	15-13	内 藤 北 村
	12-10	
	7-11	
竹 内	11-7	北 村
	11-7	

学校対抗2回戦 (対飯田)		
深 志	3-1	飯 田
竹 内	11-8	幾 島
	12-10	
	14-12	
田 原	11-8	櫻 井
	11-13	
	8-11	
	12-10	
松 島	13-15	鎌 倉
	11-7	
田 原	11-5	櫻 井
	11-9	
松 島	11-8	鎌 倉
	11-9	
	11-4	

学校対抗3回戦 (対小諸商業)		
深 志	3-2	小諸商
松 島	6-11	美斉津
	11-9	
	9-11	
白 鳥	9-11	上原勇
	11-6	
	8-11	
松 島	11-5	美斉津
	11-9	
田 原	10-12	中 沢
	9-11	
竹 内	10-12	中 沢
	11-8	
	11-9	
田 原	11-5	上原悟
	16-14	
	11-5	
	11-13	
田 原	7-11	上原悟
	11-6	

学校対抗決勝リーグ(対松商学園)

深 志	0-3	松 商
竹 内	10-12	百 瀬
	5-11	
	8-11	
白 鳥	7-11	北 沢
	8-11	
	5-11	
松 島	8-11	沖 村
	4-11	
田 原	9-11	百 瀬

学校対抗決勝リーグ(対須坂商業)

深 志	2-3	須坂商
松 島	11-9	宮 澤
	11-4	
	11-8	
竹 内	18-16	八 田
	11-9	
	13-11	
竹 内	5-11	八 田
	7-11	
白 鳥	9-11	竹 内
白 鳥	8-11	竹 内
	5-11	
	7-11	
田 原	7-11	手 塚
	11-8	
	6-11	
	7-11	

学校対抗決勝リーグ(対長野商業)

深 志	2-3	長野商
竹 内	6-11	猪 瀬
	6-11	
	6-11	
松 島	11-5	義 家
	7-11	
	16-14	
	11-6	
竹 内	4-11	猪 瀬
	8-11	
	11-8	
白 鳥	8-11	西 澤
	12-10	
	11-8	
白 鳥	11-7	黒 岩
	6-11	
	14-12	
田 原	3-11	西 澤
	6-11	
	6-11	

学校対抗の今回の組み合わせは、東信 7 位の上田との対戦から始まり、南信 3 位の飯田、東信 1 位の小諸商業と続く形となった。

初戦は余裕の勝利であるが、続く飯田戦は、昨年度の新人戦ならびに今年度の総体に続いて連続 3 回目の対戦となった。過去 2 回はいずれもストレート負けを喫しており、今回こそは過去の雪辱を果たすべく、これまでにない決意で臨んだ。一番の対戦は前回と同じ竹内対幾島戦となったが、前回はフルセットにもつれて最後に突き放されるも、今回は目の覚めるような鮮やかなストレート勝ちを収め、先行きの良さを感じさせた。二番に落とすも、3 番・4 番と一方的な試合となり、これまでの借りをやっと返すとともに、3 回戦へ駒を進めることができた。

三回戦の相手である小諸商業は、夏の岡谷スーパーカップで一度対戦しているが、そのときは相手の力が上であり、簡単には勝てない試合である。しかしこの試合を突破すれば、決勝リーグに進むことができ、上位 4 チームでの対戦ができるので、ぜひともこの壁を突破したい相手である。チーム全員が今大会の個人戦にもエントリーしている小諸商業はどのメンバーも侮れず、試合経験も豊かで、これまでに中信勢が何度も苦杯をなめてきている。一番を落とすも、1 番の白鳥が踏ん張り、1 対 1 のタイにもどす。3 番のダブルスは、小諸商業のお家芸であり、ここでも落として後がなくなる。ここから総合力において有利な深志の巻き返しが始まり、2 対 2 に持ち込み、勝敗は 5 番にもつれこんだ。5 番田原は序盤やや押され気味であったが、相手の変化によくついていき、冷静に対応しつつ、最後は得意のショートで相手の追撃を振り切り、勝利をもたらした。この瞬間が今大会で最も印象的で、うれしい場面であった。

リーグ戦開始まで小休止を挟み、北信越選抜大会出場をかけた上位 4 チームによるリーグ戦が始まった。1 試合目の相手は、中信大会決勝で対戦した松商学園である。打倒松商の合い言葉のもとに始まるも、前回は何セットか奪えたが、今回は全く歯が立たず、すべてトストレート負けを喫し、なすすべがなかった。途中でタイムアウトを入れてもまだ足りず、次の試合まで大きく間が空く始末であった。

次の長野商業とは、一月前に練習試合に伺っており、その時も実力拮抗していたが、相手がわかっているためか、伸び伸びとプレーができた。1 番の猪瀬にはさすがにだれも勝つことは出来ないが、それ以外のメンバーには勝機があり、結果的には 2 - 3 で敗退するも、リーグの中で最も白熱した試合であった。

学校対抗最後の試合は須坂商業である。実力的にはこちらに有利と判断したのが甘く、1・2 番を難なくとるもその後の展開で、どうしてもセットを奪うことができず、じりじり追い上げられ、最後はまさかの逆転劇に持ち込まれてしまった。

決勝リーグ内での順位は 4 位に終わったものの、総合 3 位の賞状を持ち帰ることができた。深志の過去の結果では、昭和 63 年の新人戦で入賞して以来の、実に 20 年ぶりの県大会団体入賞である。

翌日の個人戦では、三人が出場する中で、松島祥晃が本戦 3 回戦進出を決め、同時に行われた全国選抜代表決定戦、並びに北信越 1 年生合宿代表決定戦にも出場した。各地区代表の北信越選抜大会個人戦に出場することが確定し、昨年度に続いて本校から同大会に選手が選ばれた。